



塾長あいさつ

荒井貞夫



「断食をしてみませんか」

今年もイスラム教徒の断食(ラマダン)が3月11日から始まりました。断食の期間中、ムスリムの人々は、精神的に成長してアラーの神との絆を強めるよう心がけます。そのために、人々は祈りをささげ、コーランを読み、意識して無私無欲な行動をとり、うわさ話やうそ、争いを慎んで過ごす。しかし、残念ながらパレスチナ・ガザの休戦はならなかった。仲介国が目指したイスラエルとイスラム組織ハマスとの休戦は実現しなかった。

すべてのムスリムは、断食の1カ月間、日の出から日没まで断食しなければならない。断食はイスラム教の五行(五つの信仰行為)のひとつだ。ただし、小学生以下、病人、妊婦、旅行者、高齢者、月経中の女性は、断食を免除される。期間中に断食できなかった日があっても、年内の一定の期間または数回に分けて断食を行って、埋め合わせることができる。

断食中、日の出前と日没後には地域の人々が集まり、食事を共にする。日の出前の朝食「サフル」は、一般に午前4時から、早朝の祈り「ファジュル」の前にとる。「イフタール」と呼ばれる夕食は、日没時の祈り「マグリブ」をすませた後、午後7時半頃から始まる。

私は長いことインドネシアに駐在して、私にとっては不都合な断食に出会った。朝は四時頃拡声器で街中にお祈りの時間を知らせる。毎年その時期になると運転手もオフィスボーイも、女中も門番もイスラム教徒なので、彼らの宗教生活を優先してやらねばならなかった。日中は水も飲まずに仕事しなければならないので、さぞかし辛いだろうと思っていた。日常業務に差し支えないように秘書はクリスチャンを雇った。

断食が明けの前に女中達は田舎の村へ帰省する。私からは実家の人たちへお土産を用意する。彼女たちは持ちきれないような大きな荷物を抱えてバスへ乗り込む。ジャカルタのバスターミナルまでは運転手に送らせる。断食明けに彼女らが帰ってこないところが困ってしまう。

断食(ラマダン)の最終日が過ぎると、人々は、夜明けの集団礼拝で始まる「イドルフイトル」(断食明けの祭り)で、断食明けを盛大に祝う。この3日間の祝祭の間、人々は集まって祈り、食事をし、プレゼントを交換し、先祖に対する敬意を新たにす。一部の都市では、イベントや大規模な集団礼拝も開催される。

2度目の駐在は首都ジャカルタから飛行機と車で半日がかりの田舎の大きな町だった。従業員は皆イスラム教徒だった。幸い女中は若い夫婦でクリスチャンだった。

私には断食で忘れられない出来事がある。

それは 2011 年に国交省・JICA から引き受けたマレーシアでのブルートレインの復活プロジェクトでの事でした。マレーシアへ渡ったブルートレインの運転操作を学ぶために同系統の客車がある JR 北海道へマレーシア国鉄の技術者 8 名を連れて上野から寝台列車「北斗星」で札幌へ行く事になった。彼らはその日の朝、私と一緒にクアラルンプールから成田へ到着し、浅草から隅田川を下って浜離宮から新橋へ。新橋から皇居前広場～銀座～上野へ。上野駅の 13 番線ホームへ入った時はちょうど夕暮れ時で、もうすぐ日が沈む時間だった。

その日が断食の始まりの日(8 月 1 日)だった。暑い中を歩き回って疲れていた上に、飲まず食わずだった彼らは 13 番線ホームの地面に座り込んで、スマホを観ながら、日が沈む時間をじっと待っていた。やがてその時間になると持参していた甘い飲み物を胃袋に入れて、それから、バナナ、ナツメヤシなどを口に入れて一息ついた頃、北斗星が入線してきた。



札幌で 3 週間の実技研修を終えて、マレーシアへ帰国し、断食明けのお祝いをしたそうだが、後日クアラルンプールで再会すると「あの時の上野駅は辛かったな」と言っていました。



断食はアラーとの約束で、信仰の篤い彼らにとっては毎年やってくる断食は自分の失敗を反省し、弱者へ喜捨をして助け合う事で自分の心を静め、辛い断食を成し遂げた誇りを持って明日からの生活に立ち向かって行く良い機会となるようです。

私もやって見ましたが、食べ物は我慢できませんが、乾きには耐えられませんでした。彼らによると断食は始めてから最初の一週間ぐらいが一番辛いそうです。

あなたも断食をやって見ませんか。(2024 年 3 月 13 日に記す)





笑楽日塾3月 塾会報告

期日 2024年3月14日 17時15分～19時15分

会場 スポーツクラブ NAS 5階ロイヤルルーム

出席者 八木、高木、清藤、内田、吉田、星、南、荒井 8名

欠席者 菊地、先崎、荒川、新井邦夫、新井齊 5名

吉田さん・高木さん・南さんをお願いして4時30分にNASへ集合し、マルエツへ。

「収入」会費@1,500円 × 8人 = 12,000円

「支出」寿司、チータラ、ビール・日本酒、ドライゼロ。

お寿司類 :5,415円 お酒・つまみ類 7,606円 合計 13,021円

1. 記念冊子6号発行

笑楽日塾記念誌6号(76頁)を八木さんが編集して下さり、試し刷りの後、ラクスルへ14部発注し完成したので、塾生へ販売した。

原価2,041円を2,300円で販売した。

申込み:

2冊注文:新井齊、清藤孝

1冊注文:八木 守・新井邦夫・吉田喜義・高木輝雄・星 広行・南 英倫・

先崎 隆・内田 茂・荒川徳広・荒井貞夫

16日(土)に受け渡し:荒川さんへ

17日(日)に受け渡し:新井齊さんへ

2. 近況報告:

今月は先崎さんの体調不良(目眩、ふらつき)、新井邦夫さんの肺がんの治療などの話が大きな話題になっていた。

語らいの中で、塾生も何らかの自動車や自転車事故で怪我したり、病気したり長い人生の中で、いろいろな忘れられない体験をしていた事が分かった。

新井邦夫さん、先崎さんには一日も早く快復されることを願うばかりです。

塾生は「明日は何が起こるから分からないから、今日いちにちを健康に、平凡に暮らせる事の幸せを感じ取った」一夜でした。

八木さんがミニプレーヤー+スピーカーを持参して、懐かしいフォークソングを聞きながら、健康の大切さをかみしめた集まりとなりました。



3. お花見の計画

今年は春にお花見を計画したい。さくらの開花予想は 20 日頃のようなので、満開を狙って以下の内容で開催したい。

「内容」

開催日： 3月30日(日)

集合時間:11時30分

開催場所:蕨市民公園

持ち物： ブルーシート、ゴミ袋は吉田さんと先崎さん、荒井が持参します。

食べ物、飲み物は各自持参して下さい。

お尻が痛くなるのでクッションをお持ち下さい。

雨が降ったら翌日 31 日(日)にします。



「4月予定」

1. 令和5年度会計監査

開催日時： 4月5日(金) 10:00～ 会計監査(わらびネットワークステーション内)

2. 総会兼塾会

開催日： 4月11日(木) 17:00～ NAS



「シニアの風」

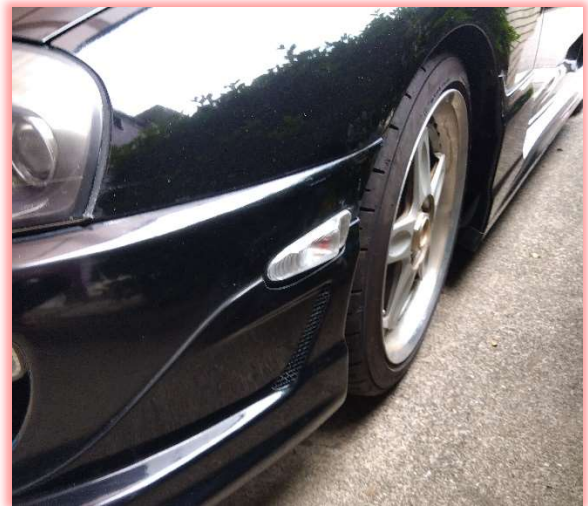
(順番制で行います。4月号は 清藤 孝さんですので準備の程、宜しくお願い致します。)

「80スープラのドレスアップ」

塾生 南 英倫

A80スープラのサイドウインカのレンズをオリジナルの黄色のまま放置していましたが、突然何だかダサいなと思いクリアレンズに交換 (*^_^*)

バンパーにあるスモールランプの下の開口部から手を入れてウインカユニット取付ボルトのナットを外し30分程で右側の交換作業完了。 お洒落になってニンマリ (*^_^*)



いい調子で左側のウインカに取りかかるとウインドウオッシュタンクが手前にあり、ウインカにやっと手が届く程度でした。ムキになって寝板に乗り1時間ほど格闘するもあえなく降参。

数日気力の回復を待って再挑戦。

思い切って左のホイールを外し、ホイールハウスのカバーを外しフェンダ内側からのウインカユニットを交換する作業に踏み切りました。

M10のボルト9本を外しプラスチックのへなへなカバーを剥ぎ取ってみると目の前にあんなに苦労したウインカユニットが現れ感激。





いとも簡単にクリアレンズに交換できた達成感は自工研のプライドを呼び起こします。

ウインカユニットを取付け寛いでいると、ランプソケットのケーブルが短い事に気づきました。



右側ウインカはランプソケットのケーブルが長く手前に引き出すことができる設計です。両手がバンパー開口部に入るので、バンパー内でバルブを容易に交換できます。

左側フェンダの内側にはウインドウオッシュタンクが張り出し片手しか奥に入りません。ウインカーバルブの交換は、わざわざホイールハウスのカバーを外しフェンダ内側からアクセスすることに諦めたのでケーブルも短いのかなあ・・・
バルブが切れたらもう一度やんなきゃ あ～あ (>_<)

そう言えばオイルフィルタの交換もモータ下のデフューザを外し下側からの作業だった。厄介な車です



ドレスアップの基本チューニング

JZA80 スーブラ 後期用サイドウインカー(クリア)

📍 39ショップ

◆ JZA80 スーブラ 後期用サイドウインカー(クリア)

◇ 商品詳細

- ・ 1年間保証付き！ 希少サイドマーカークリア
- ・ 純正と交換するだけの簡単取り付けでサイドウインカーをシャープに！
- ・ 純正のオレンジレンズを今流行のクリアレンズに交換しませんか？
- ・ 本体2個&オレンジバルブ2個付き



八木 守

二十四節気(にじゅうしせつき)の続きです。

3月になりました。

寒い日とあたたかい日が交互にやってきて、やがて春になっていく節目の季節ですね。

3月は年度末にあたることも多く、行事などで忙しくなる人も多いのではないのでしょうか。

そんななかでも塾生皆さんが経験したことがある行事「卒業式」を少しお話しします。



私はもういい**光貴高齢者**なので、卒業式を経験する機会はなくなりましたが、歳を重ねるごとに思うのは、人と人との出会いは常に「一期一会」であるということです。

たとえば仲間たちと一緒に仕事をするとき、次もまた同じメンバーでできるとは限りません。友人との飲み会などのイベントも、同じメンバーで続くとは限りませんし、実際にあとから考えたら一度きりだった...という経験をこれまでたくさんしてきました。だからこそ、後悔しないように今、この瞬間を大切に過ごそうと思っています。

さて、話を戻して二十四節気です。

啓蟄 けいちつ (3/5~19 ごろ)

土中で冬ごもりをしていた生き物たちが目覚める頃。

生き物たちは久しぶりに感じるポカポカ陽気に、続々と動き出します。桃の花が咲き、蝶々が飛びはじめ、春の訪れを華やかに彩ってくれます。

〈七十二候〉

蟄虫啓戸(すごもりむしとをひらく) 3月5日~3月9日ごろ

二十四節気の「啓蟄(けいちつ)」と同じで、地中で冬ごもりをしていた生きものたちが春の陽気を感じ、姿を見せてくれる頃。

桃始笑(ももはじめてさく) 3月10日~3月14日ごろ

名前がとてもかわいい、私のお気に入りの七十二候です。「桃始笑」は5日間という短い季節ですが、字を見るだけで春の訪れを感じられる、とても素直で優しい印象の季節です。読んで字のごとく、桃のつぼみがほころび、花が咲きはじめる頃。昔は花が咲くことを「笑う」といっていました。

菜虫化蝶(なむしちょうとなる) 3月15日~3月19日ごろ

厳しい冬を越したさなぎが羽化し、美しい蝶へと生まれ変わる頃。春のやわらかな光を全身に受けて、きらきらと羽を輝かせながら、春の野を自由に飛び回ります。

春分 しゅんぶん (3/20~4/3 ごろ)



昼と夜が同じ長さになる頃。

雀が巣をつくり始め、桜が開花し、本格的に春が到来します。出会いや別れ、新生活のはじまりなど変化が多いのもこの時期です。

〈七十二候〉

雀始巢(すずめはじめてすくう) 3月20日~3月24日頃

すずめは日本人にとってとても身近な存在で、古くは古事記や日本書紀に登場し、その頃から今と変わらず「雀」と漢字で書かれています。

「したきりすずめ」などの昔話や、童謡、俳句などにも登場し、鳥と聞くとすずめを思い浮かべる人も多いかもしれません。

雀が巣をつくりはじめる頃で、人家の壁の隙間や瓦の下、交通標識のパイプなどに、枯れ草や藁(わら)、動物の毛などで器用に巣をつくります。しかし、藪で雀を見るのは錦町の方に行かないと見ることが出来ませんね。

桜始開(さくらはじめてひらく) 3月25日~3月29日頃

読んで字のごとく、桜の花が咲くころ。私たちが愛してやまない桜が、春の景色をやさしいピンク色に染めていきます。桜はちゃんと、毎年咲いてくれる。変わらずにそこにある季節に、ほっと一息つけるような気がします。

雷乃発声(かみなりすなわちこえをはつす) 3月30日~4月3日頃

名前がとても長い七十二候ですね。多分、七十二候の中で一番長いんじゃないかな…？ その分インパクトの強い七十二候ですが、読んで字のごとく遠くの空で雷が鳴りだすころ。